



# 「館林駅西口駅前広場」が完成しました ～利便性の向上と賑わいの創出の場。両毛地域の玄関口～

館林市 都市建設部 区画整理課

平成31年3月24日(日)に「館林駅西口駅前広場」の完成を記念してオープニングセレモニーが開催されました。桜の開花が待ち望まれる中、関係者約100名の出席をいただき、盛大に執り行われました。

西口駅前広場は「館林都市計画事業西部第一中土地区画整理事業」において整備を進め、東武鉄道館林駅の東西連結機能の充実と館林市西部の交通結節点としての役割を担うものになります。

館林駅の西側は戦前まで正田醤油株式会社と日清製粉株式会社(現在の株式会社日清製粉グループ本社)の他は民家が点在し、田畑が広がるのどかな風景でした。その後、高度経済成長期を迎え、館林駅のすぐ西側は立地の良さから優良な住環境を求める声が高まり、土地区画整理事業と共に館林駅の西口に広場を設置しようとする計画が立ち上がりました。

それまでの館林駅は駅前広場が東口にしかなく、特に朝夕の通勤通学時間帯は路線バスやタクシー、送迎用の車両による混雑が課題となっていました。

また、館林市は古くから駅の東側を中心に発展してきた歴史があり、駅の西側も含めた都市の均衡ある発展が課題となっていたため、西口駅前広場の整備は館林駅を中心とした賑わいを作り出す拠点として注目されるようになりました。



位置図



鳥瞰図



平面図



整備状況(H28)



整備状況(H30)



整備状況(H31)





平成21年度に「館林東西駅前広場連絡通路」が完成したことを受け、平成24年度から西口駅前広場の築造に着手したものの、用地の確保に時間を要し、大部分は平成29年度から工事を行いました。工事施工中は広場の一部を供用しながら整備を行ったため、通行者の安全確保には特に気を配りました。

完成した西口駅前広場は面積が約7,000㎡(同駅東口広場の1.75倍)であり、東西駅前広場連絡通路から各乗降場へと続く連続シェルターにより、雨に濡れずに路線バスやタクシーへの乗り換えができます。また、多目的トイレと有料駐車場(32台)をロータリーの内側部分に配置し、緑地帯には市内の各団体から寄贈された記念樹や温度計のほか、館林市を象徴する数種類のツツジを植栽しました。開放感のある広いオープンスペースも確保し、民間活力を利用したイベントも企画されています。冒頭で紹介したオープニングセレモニーもこちらで行われました。



地元保存会による八木節の演奏



市内の高校和太鼓部による演奏



テープカット



くす玉の開披



館林駅

昭和29年頃の館林駅周辺の様子  
(中央が館林駅、線路を挟んで手前が西口方面)

館林駅は、明治40年(1907年)に開業した歴史ある駅であり、県内で6番目に乗降客数が多い駅です。また、東武伊勢崎線、佐野線、小泉線の3路線が交錯するターミナル駅であり、「浅草駅」や「とうきょうスカイツリー駅」まで急行で約1時間と交通の利便性が高く、近隣市町からのアクセスも良い所にあります。館林駅西口駅前広場は各種端末交通手段の乗換場所としての機能はもちろんのこと、館林市の新しい玄関口として人々の往来が活発となり、館林市の賑わいの中心になってくれるものと期待しています。

#### 【館林駅西口駅前広場概要】

- ・整備面積 7,048㎡
- ・タクシープール 12台
- ・有料駐車場 32台(身体障がい者用1台含む)
- ・トイレ 1箇所  
(男性、女性、多目的用各々1箇所)
- ・乗降スペース
- ・シェルター  
(フッ素樹脂酸化チタン光触媒膜使用)
- ・一般車3台、タクシー2台、身障者用1台
- ・その他
- ・路線バス2台、一般バス2台
- ・照明灯(LED)、給水設備、屋外コンセント、サークルベンチ等
- ・バス待機場 一般バス2台

